

第30回ITER 機構職員募集説明会でのQ&A

1. 日時・場所

平成21年9月16-17日

東北大学青葉山キャンパス(日本原子力学会 2009年秋の大会会場)

2. 来訪者:約20名

3. 説明概要:

日本原子力学会2009年秋の大会会場の展示エリアにおいて、学会参加者に資料を配布し、ITER機構職員募集および登録の案内を行う(安東俊郎 ITER 協力調整 SGL)。

4. 主なQ&A

Q1:カダラッシュはどこにありますか？

A1:カダラッシュは南フランスのプロバンス地方にあります。近くにはエクサンプロバンスという町があり、日本人の観光客にも人気があります。

Q2:ITER 機構に現在日本人は何人いますか？

A2:現在専門職員は23人、支援職員は5人います。ITER 機構の専門職員全体の約9%程度です。これを倍増させることを目標としています。今後とも応募が増えるよう支援を惜しみません。是非応募をお願いします。

Q3:ITER 機構職員の収入はどのくらいですか？

A3:ITER 機構職員の給与は公開されていません。IAEAなどの国際機関の給与体系をベースにしており、ユーロで支払われます。

Q4:大学新卒でも採用されますか？

A4:ITER機構の職員採用はいわゆるキャリア採用になっていますので、最低3年の実務経験が要求されます。したがって、例えば、まず民間会社や研究機関等の職員として実績を積んでから、ITER機構職員となるというルートも考えられます。なお、現在公募は行われていませんが、ITER機構にはポスドク・フェローシップ制度があり、これに採用されますとITER機構から給料が支給されます。

Q5:登録制度とはどういうものですか？

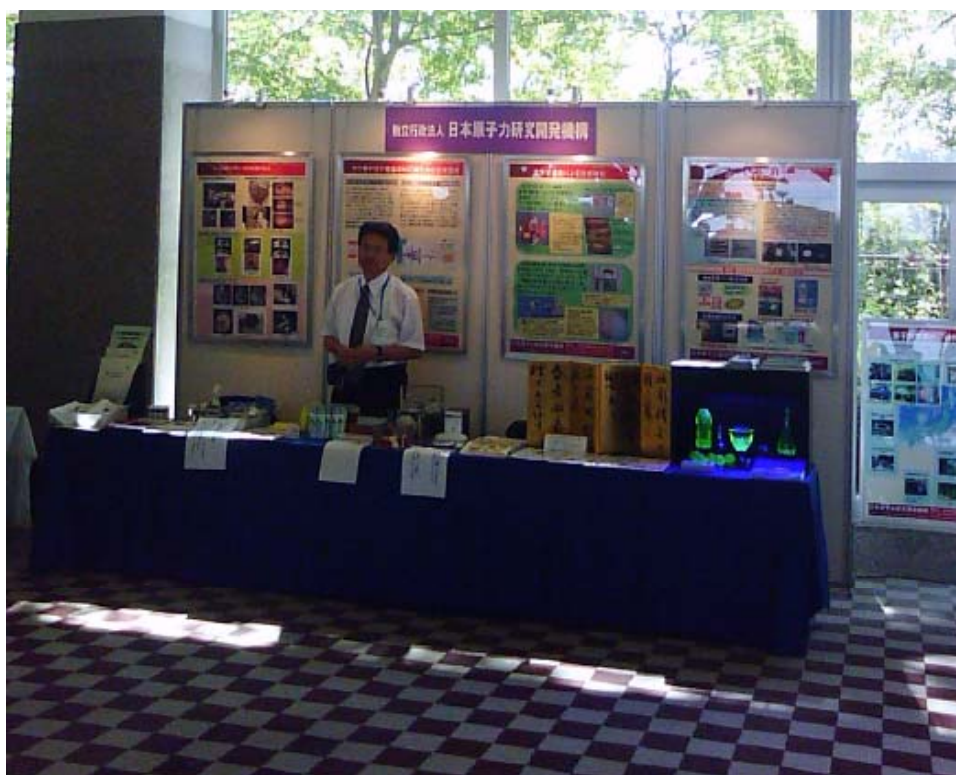
A5:この制度に登録していただきますと、公募情報などを登録されたメール・アドレスに直接お送りしています。また、希望される登録者に対して模擬面接ビデオの閲覧や応募書類の英文確認、面接英語のトレーニングなど、面接に役立つような支援を実施しています。

Q6:フランス語は必要でしょうか？

A6: ITER機構における公用語は英語です。フランス語は必須ではありません。ただし、職種によっては、フランス政府当局や地元との折衝が必要となりますので、フランス語が必須条件となる場合もあります。この場合は、公募の際のジョブ・ディスクリプションにその旨が記載されます。

Q7: ITER機構職員には、どのような人材が求められていますか？

A7: 専門性があり、数年間の実務経験を有する人材をITER機構は求めています。加えて、英語の語学力、とくに英語でのコミュニケーション、自分の考えをしっかりとアピールできる人材が求められます。また、仕事への熱意、ポジティブな考えを常に持ち、国際的環境においても、チームの一員として協調できることが重要です。



原子力学会2009年秋の大会会場の展示エリアの様子